

お元気 ですか

12月

子宮頸がん・子宮体がん

子宮がんには、「子宮頸がん」と「子宮体がん」の2つの種類があります。いずれも、悪性腫瘍であり、初期は自覚症状がない場合もあるので、早期発見のためには定期的に検診を受ける必要があります。今月号では、子宮頸がん、子宮体がんについてお伝えします。

子宮頸がん

30代以上にみられることが多かったのですが、最近20代での発症も増えています。また子宮頸がんの発症はヒトパピローマウイルスの感染が関係していることがわかっています。初期は無症状のことがほとんどで、時に、性交時に出血がみられることもあります。放置しておくのがんが進行し、出血が続き、量も多くなります。

子宮体がん

肥満、あるいは出産経験のない女性がかかりやすく、閉経周辺期以降に多いがんです。

検査方法

子宮頸がん検診は、子宮の入り口である子宮頸部の細胞を採取します。検診で異常な細胞が認められたら、専門医による精密検査を受けてください。

子宮体がん検診は子宮内膜の細胞を採取して異常の有無を診断します。閉経後に出血がみられたときは、速やかに子宮体がん検査を受けてください。



治療方法

がんの進行度によって異なりますが、年齢、妊娠・出産を望むかどうかなどを考慮しながら決められます。ごく初期の頸がんの場合のみ、子宮頸部の一部を切除する円錐切除術を行い、子宮を残すことは可能です。頸がん、体がんどちらも進行すると、子宮全体、さらに子宮の周囲にあるリンパ節や卵巣、卵管なども含めて摘出することになります。

手術とともに、抗がん剤治療、放射線療法、ホルモン療法などを単独あるいは組み合わせて行います。近年は、早期発見・早期治療により生存率も高くなっています。



坂出市では令和7年2月28日まで子宮頸がん検診を病院・診療所（集団検診では1月、2月）で実施していますので、ぜひ受診してください。
子宮体がん検診をご希望の場合は、医療機関へ直接お問い合わせください。